

## 1 趣旨

児童・生徒が情報社会に参画する態度を一層育成するため、民間会社の知見を活かし、授業での活用や家庭での啓発を行うとともに、主体的に学ぶ情報モラル教材として改善を図った。

配布について  
3月末に都内全公立学校に配布し、4月より活用

## 2 改善内容 (発達段階に即した教材)

平成28年度 3分冊

①小学校 低学年用    ②小学校 高学年用    ③中学生・高校生用



<日常モラル>  
絵を見て考える



<ネットモラル>  
写真の発信



<主体的な学び>  
災害時の活用

平成29年度 5分冊

①小学校 1・2年用    ②小学校 3・4年用    ③小学校 5・6年用    ④中学生用    ⑤高校生用

(例) SNS東京ノート⑤  
「カード教材の開発」



近隣の小・中学生に情報モラルを教えるという想定で、これまで学習してきたことを生かして「カード教材」を自作する。

## 3 改善内容 (話し合いを活性化する教材)

・友達にされたら、「嫌だな」と感じるものを上から順に並べてみましょう

- 1 すぐに返信が来ない
- 2 なかなか会話が終わらない
- 3 知らないところで自分の話題が出ている
- 4 話をしている時にケータイ・スマホをさわっている
- 5 自分が一緒に写っている写真を公開される

(例) SNS東京ノート⑤  
「自分と相手との違い」

たかし

- 1 すぐに返信が来ない
- 3 知らないところで自分の話題が出ている
- 4 話をしている時にケータイ・スマホをさわっている
- 5 自分が一緒に写っている写真を公開される

いやだ

花子

- 1 すぐに返信が来ない
- 2 なかなか会話が終わらない
- 3 知らないところで自分の話題が出ている
- 4 話をしている時にケータイ・スマホをさわっている
- 5 自分が一緒に写っている写真を公開される

いやじゃない

カードの並べ方が違うことにより、どのようなことが起こるかを考える。

人による認識の違いに気付き、より適切な関わり方について考えを深める。

## 4 改善内容 (保護者への啓発)

(例) SNS東京ノート⑤  
「家庭での使い方を考えましょう」

メッセージをやりとりしてよい相手はどこまでか  
下図の資料をもとに保護者同士で意見交換を行う。

家族    同じ学校の友達    違う学校の友達    SNS上の友達    誰でも

スマートフォンを子供に持たせることをイメージして話し合う。

普段会っている友達	SNSで知り合った人
SNSだけでやり取りをする	SNSだけでやり取りをする
実際に会う	どうするか考えてみましょう

保護者会等で活用できる資料を掲載

保護者間の話し合いを行ったり、家庭で子供と一緒に話し合ったりするために活用